

県民からの御意見（抜粋）

- 平成28年9月15日現在で、延べ40件の御意見が寄せられている。部活動に関わる主な御意見については、以下のとおり。

- 小学校には部活動がある地域とない地域があり、ない地域とある地域を平均化すれば低くなるのは当然である。私の知り合いは小学校バレー部顧問で、「私は365日中364日勤務した」と言っていた。深刻な状況は小学校も同じであり、むしろ、小学校の方がルール無視のひどいところが多いと感じる。ある程度空き時間が確保されている中学校、高校と比べると過酷さは大きいのではないかと。

- 中学校の部活動を正常化するために、以下の提言をしたい。

1：教員の法定の勤務条件、勤務時間の厳守

超勤4項目に含まれていない部活動について、教員が勤務時間外に指導に当たるのは「脱法行為」である。

2：教員の勤務時間の関係および部活動の実技指導の専門性を確保する必要から、教員は部活動の実技指導を行えないことを確認する。

文部科学省のガイドラインで求められているような指導を一般の教員に求めることは過剰な要求であり、勤務時間内であったとしても、運動部活動の技術指導を教員にゆだねることは問題である。

3：部活動の実技指導は外部の指導者が行う。

指導計画、方針等については、マネジメント役の教員と連絡調整を行う。

4：部活動の活動日数を制限する。

生徒に様々な経験をさせる必要があることから、平日は週3日程度、土日は原則禁止する。

5：中学校単位の全国大会の廃止

部活動の過熱化を促進するのが過度の勝利至上主義である。学校の部活動に国際競技力の向上などの役割を課すのはふさわしくない。

6：部活動の全員加入制の廃止

部活動はあくまで「生徒の自主的、自発的な参加」により行われるもので、全員加入を強制し、土・日まで部活動参加を求めることは学習指導要領の趣旨からも逸脱している。

- 娘が中学校の教員だが、朝の部活動から、夜は平均して21時～22時ごろまで学校で仕事をしている。そして、土・日も部活動のため出勤していく。現在は独身であり、家事をしなくてもよいが、将来のことを考えるとどうなるのかが心配である。娘もせめて部活動の指導がなくなればもっと楽になると言っている。部活動を教師以外の方にお問い合わせするような方法をぜひ考えていただきたい。

- 私が住む市のある審議会で、部活動の社会体育への移行は、受け皿が少ない日本の現状では無理だという発言を聞いたが、受け皿が少ないのは、学校部活動が子どもたちを抱え込んでいるからであり、社会体育に移行する姿勢を県教委が鮮明に打ち出せば、民間もそれに続くはずである。
- 部活動指導を強制することは、労基法に定められた休憩時間という観点から見て、違法である可能性がある。労基法によると、使用者はその間に45分以上の休憩を労働者に取らせなければならないが、帰りの短活・STが終わると息つく暇もなく部活動指導が始まり、夏場は6時台まで続く中、現在の部活動指導のあり方を抜本的に改めない限り、この違法状態を解消することはできない。
- 勤務時間外の部活動指導は強制されないと県教委は言っており、それでも指導しているのだから自主的・自発的だと言いたくなる気持ちも分からなくはないが、ほとんどの教員には県教委の考え方は伝わっていない。勤務時間外の部活動は断れるということを知らないまま、部活動指導に仕方なく従事しているという教員も多くいる。そういう教員のために、勤務時間外の部活動指導は強制ではないということを県教委が積極的に広報していただきたい。不祥事が起きると配られるカードやパンフレットのように、しっかりと全職員に知らせてほしい。
- 勤務時間外の部活動指導が断れることを知っていても、周囲や管理職からの圧力でなかなか言い出せないという教員もいると思うので、県教委が前に出て、市町村教委を通じ、教員の意思が自由に表明できるような環境づくりを管理職に指導していただきたい。
- 半分以上の子どもや保護者や地域の方々は、部活動を今のように続けてほしいと思っているかもしれないが、時代が変わり、ライフスタイルや価値観が多様化する中で、部活動のあり方を変えてほしいと願う人たちの思いは確実に生まれているはずである。部活動負担の軽減を訴える教員の動きが出てきているが、その思いを抱えているのは単に教員だけではないということに留意していただきたい。
- 部活動の縮小を考える上で、必ず出てくる意見が、部活動をさせておけば中学生が悪さをしないというものであるが、今の中学生は、たとえ部活動がなかったとしても、塾や習い事や学校の課題で遊ぶ暇もなく、今はその上部活動があるため、中学生はブラック企業の労働者並みの肉体的・精神的負担を強いられている。私が担任する野球部の生徒2名も、見ていてこちらが辛くなるほど部活動や塾や課題に追い詰められていて、少しでも負担が軽くなるよう保護者と折衝した。部活動をなくしたからといって、中学生が暇を持て余すようなことはないし、そもそも、本当に悪さをする中学生は部活動にも参加しない。部活動をなくすメリット・デメリットを考えた時、中学生の負担軽減という観点からメリットの方が大きいと思う。